



**最古の木造灯台  
移転後も現役で**

夕暮れ時、緑の光をともす今津灯台。  
後ろでは水門の建設が進む。2月9日午  
後6時すぎ、兵庫県西宮市今津西浜町  
昭和34(1959)年に撮影された今  
津灯台! 大閑提供

「大関」が所有 光は緑→赤に

西宮市教育委員会などによると、建設は1810（文化7）年。同市の酒造会社「大関」の創業家・長部家の5代目長兵衛が、後に「灘五郷」と呼ばれる酒籠形だ。

対策工事のため2000年余りの歴史で初めて移設され  
る。灘の清酒を江戸に運んだ樽廻船を導いた江戸時代  
の姿のまま、対岸に移る。から赤色に変わると予定だ。  
石積みの上合に立つ丁合

年、民営の航路標識として認定した。西宮市教委は74年、市指定重要有形文化財とした。市教委は「現役の木造灯台としては日本最古」としている。所有する大閥が今も毎日、灯台の見回りを続けている。

それから再建と修復が重ねられ、当時の姿を保つ。あかね灯りには当時は油を使っており、雨風を防ぐために油障子で覆っていた。大正時代に電化されて油障子が取り除かれ、今は格子だけが残っている。

江戸へ運ぶ樽廻船の航行の安全を願い、私費を投じて建

A map of Hyogo Prefecture, Japan, with a red dot marking the location of Nishiochi Station near the city of Nishiochi.

舶航行の決まりを定めた船舶標識法で、入港する船から見て「左側に陸地や障害物がある」ことを示す場合は縁だが、右側の場合は赤い矢印で示す。大関の担当者は「代々受け継がれてきたシンボル。酒どころの歴史を伝えるため、今後も大切に保存していきたい」と話している。

対岸に移設することで県と合意。文化財としての価値を保つため、石積みと屋根、胴体を別々に運び、対岸で組み立て、江戸時代の姿を再現する方針だ。着工のめどは来年3月だ。

から今津港で進めてきた建設工事の一環だ。南海トラフ巨大地震による津波が河口から川をさかのぼってくる恐れがあるため、今は水門を建設中。灯台として使い続けるためには、新設される水門より外側に移設される必要が生じた。

大関側は、酒井二郎の歴史を伝える象徴として、「現役続行」を希望した。昨夏、南西約200㍍の



## 兵庫・今津港

移設は、県が2016年

(松永和彦)